

県産畜産フード、食べくらべ ～かながわ畜産フードコレクション2015～

神奈川の畜産フードが勢ぞろいする「かながわ畜産フードコレクション2015」が、10月18日、神奈川県庁本庁舎駐車場などで開催された。県内の銘柄牛や銘柄豚をはじめ、乳製品、鶏肉、鶏卵、蜂蜜など、20団体が県産の畜産フードを販売し、美味しさをPRした。今年は、「生粋かながわ牛」「やまゆりポーク」や県産食材を使ったメニューを提供する地元飲食店も2店参加した。また、畜産に関するパネル展示、「家畜とのふれあいコーナー」で乳牛や子豚、食用鶏のヒナの展示を行い、大消費地圏の中にある「かながわ畜産」への理解を求めた。



畜産関係団体の代表らが県庁前でテープカットを行った

主催者の「かながわ畜産ブランド推進協議会」高桑光雄会長は、TPP交渉大筋合意を受けて「神奈川県が生産者は、大消費圏の中で環境問題や後継者問題に取り組みながら、新鮮で安全・安心な県産農畜産物を県民の皆様にお届けするため日々努力している。畜産団体は県行政や関係団体と連携を密にして、国産農畜産物が、安い輸入品と差別化を図り対抗できるよう、畜産経営を支援し、本県の畜産振興に取り組んでいく。今日のイベントを通じて県産畜産物の美味しさを知っていただき、神奈川畜産の応援団になっていただきたい」と挨拶した。

来賓を代表し、(一社)日本養豚協会会長の志澤勝氏が「畜産やハム、アイスクリーム発祥の横浜で、県庁の本庁舎を会場に、県産畜産物への理解を求める機会を与えて頂き、県・関係団体の皆様には感謝している。都市の中で約400戸の畜産農家が営農を継続できるのも、県民の理解と行政の応援のお陰。畜産関係者一同、都市の中の畜産として根を張りながら地産・地消を推進したい」と挨拶した。



やまゆりポークなど、県産畜産ブランドをPRした

神奈川畜産ブランド推進協議会は、平成26年5月に設立後、同コレクションや県産畜産物の商談会を開催し、県産畜産ブランドの知名度向上や販売拡大に取り組む他、会員の販売力強化のため「かながわ畜産・売れる絆づくり塾」を開催している。事務局の(一社)神奈川県畜産会の丹波義彰専務理事は、「県内には畜産ブランドが数多くあり、売り方、見せ方など販売手法を工夫し、輸入品に対抗する必要があると考えている会員が多い。地産地消、安全・安心、美味しさなどの要素を、消費者に分かりやすく伝えようと、マーケティングの勉強や商談会への出展などにも意欲的だ。県内畜産戸数は減少しているが、後継者を中心に勉強会を開催したり、若い人が結束を強めているので、協議会としてセミナーの開催や各種商談会の利用促進などでバックアップしていきたい」と話している。



「生粋かながわ牛」約15kg分の試食に長蛇の列ができた